

作品 No.051



生きものの“つぶやき”:

「この桜吹雪が目に入らぬかアアア！」

エッセイ:

幼い頃の方が、地面にいる小さい虫が好きだった気がする。

大きい虫は自分で捕れなかったから。成長するにつれ、逆に小さい虫への興味はなくなっていった。モゾモゾしているだけの存在に、何の面白味があるんだッ！と。

そんな時だ。子供の頃から何となく気になっていた、ブロック塀の上の赤いモゾモゾに玩具の顕微鏡をフッと向けてみたのは。

ガツン、と来た。何だ、この精巧な体の作りは？円形だと思っていたフォルムは草履型で、びっしり細かい毛でおおわれていた。特に引き付けられたのは、背中だ。

小さな背中いっぱいにかぶトガニの様な模様が刻まれていた。入れ墨みたい。

遠山の金さんみたいで格好が良かった。以来、3年の付き合いになる。

世界には、まだ私が知らない虫がたくさん存在する。と同時に、彼らの様に身近にいるのに全く生態を知らない虫もたくさんいる。

世界は、興味の数だけ広がるのだ。(374字)

生きものの紹介：

アカケダニ：日本では本州～南西諸島に生息。11月から3月にかけて見られるナミケダニ科のダニ。体長2～3mm。色に反して無害。幼虫は昆虫やクモに寄生するという。

私の実験によれば、成虫は砂糖が好物で、コーヒーは嫌いである。砂糖に関しては、取り合っているのを見たことがある。

撮影場所・日時：

千葉県松戸市（自宅前）・2020年5月31日12:30頃

応募者の自己紹介：

1. 赤松未子／昭和学院秀英高等学校2年
2. 所属：柔道部、ボランティア同好会
3. 将来の夢：自分の子供を虫好きに育てる

審査委員会からのコメント

生きものへの興味が、自分の成長と共に変化する様うまく表現されています。他の人が被写体にしない独自の目線がユニークでいいです。